

1. 活動期間

2024 年 4 月 23 日（火）8 時 30 分 ～ 2024 年 4 月 25 日（木）17 時

2. 活動場所

避難所：正院公民館避難所：石川県珠洲市正院町 22-2-1

大谷小中学校避難所：石川県珠洲市大谷町 1-78

仮設住宅：正院第一団地・集会場：石川県珠洲市正院町 1-39

3. 石川県珠洲市の被害状況（4 月 23 日 14:00 時点 石川県庁情報）

人的被害 死者：103 人 うち災害関連死：6 人 負傷者：重傷 47 人、軽症 202 人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊：7,560 棟 非住家被害：4,774 棟

4. 避難所の状況

【避難者数】

正院公民館避難所：7 人 日中は 2 人

大谷小中学校避難所：18 人、常時 15 人 在宅には 50 食弁当配布。最近の大きな人数増減はない。

【避難所運営及び生活状況】

1) 正院町公民館避難所（4 月 25 日（木）14 時 30 分訪問）

4 月 21 日（日）に正院小学校より移転し避難者数は 7 人であった。訪問時 5 人は仕事等で不在であり 2 人の高齢者がおられた。高齢者は、午前中はお茶会に参加されており体調不良は認められなかった。日中の避難所の管理は、正院区長が避難所に駐在し内部の管理及び外部者との連絡等を行っていた。避難所の玄関自動ドアは修理されておりスムーズに開閉していた。また、玄関内にシャワーのテントが設置されており、先週、仮設に移転した方も、ガス風呂は苦手だからと避難所のシャワーを利用していた。断水は継続していた。

2) 大谷小中学校避難所（4 月 25 日（木）15 時 30 分訪問）

本部長は小学校の PTA 総会で不在、常駐している物品担当の方も不在であり、本部では消防の方が対応された。2 次避難から戻られる方もなく避難所及び在宅の人数は先週と変動はなかった。避難所のレイアウトも 3 月末の状態と変化はなく、体育館には児童 2 名と本部の方 2 名がおり、以前より健康状態を観察していた方も朝から外出して不在であった。断水は継続していた。

5. 仮設住宅の状況

正院町第一団地：（正院小学校グラウンド 76 戸）（4 月 23 日（火）24 日（水）25 日（木）訪問）

仮設住宅周囲の通路のアスファルト舗装と駐車場が整備され、集会場の前を含め広場一杯にロープでの仕切りと番号表示があり車が止められていた。集会場玄関の柱には、部屋番号と駐車番号の割り振りが表示されていた。各戸の玄関前の通路は停車のみとなっていた。住民は「歩きやすくなった」と舗装に関する感想を述べていた。また、入居者の苗字が各棟列の入口に、同意者のみ表示されていた。食事は自炊であるが、日中の炊き出しが時々あり、24 日（水）も集会所の前で行われ行列ができていた。

6. 支援活動の実際

【避難所支援】

正院町公民館避難所及び大谷小中学校避難所の巡回訪問を行い、住環境や要観察者の把握に務めた。正院町公民館避難所は、移転して2日目であったが、テントや物品の位置も定まり静かな雰囲気であった。大谷小中学校避難所ではレイアウトの変化はなく学校行事等の参加が進んでいた。また、在宅者は、その地区の代表者が弁当を取りに来られ、弁当の配布数で在宅者の変動が把握されていた。消防の方によれば救急搬送の事例はないとのことであった。

【仮設住宅支援】

正院第一仮設団地内でお茶会前に、以前の巡回で把握された一人暮らしの方や交流が必要と思われる方に対して声かけを行うと共に顔色等を観察した。お茶会の後に民生委員と「ごはんが炊けない」と話していた一人暮らしの高齢男性の自宅を訪問した。ごはんは炊けていたが、慣れていない状況であった。再度電子ジャーの番号の振ってある順番でスイッチを押す手順などを復習してもらった。その方は、自転車によく外出しており体調も良く、行動範囲が広がっていることが確認できた。

【地域コミュニティ支援】

1) 区長会主催：正院第一団地集会所におけるお茶会

開催日時：4月23日（火）～25日（木）の10時～12時

参加者：4月23日（火）8名、4月24日（水）12名、4月25日（木）8名（女性のみ）

・3日間の主な内容

1日目は、在宅住民の方の手作り料理の筍煮、つけものなどが提供され料理中心の話題となっていた。2日目は、4月上旬まで2次避難をして最近仮設住宅に移転した7名が参加された。久々の交流に喜びあい、家電の使い方でごはんが上手く炊けないという共通の悩みや2次避難者には情報が届かない等の2次避難者ならではの苦労が話題の中心となった。ごはんに関しては、集会場に置かれていた非常食としての「α米のおいしい食べ方講習会」が、現地で避難所暮らしをした方により行われた。実際に、それぞれが作り試食を行った。2次避難者の多くは、α米を手取るのが初めてであり、手軽で美味しいと好評であった。3日目は、支援者側として、前日に2次避難者の多くが血圧手帳を持参していないことや血圧測定が実施されていなかったことがわかり、増進センターより血圧計と血圧手帳の提供を受けた。血圧手帳を持っていない方に配布すると共に、次回にお茶会に参加する時も持参するように伝えた。また、現在の困りごとをメモ用紙に記入してもらった。この日は仮設住居の物音に関する悩みがあり、それが会話で共有されていた。

・3日間を通してでは、在宅、避難所、仮設住宅に居住する方々が参加された。男性参加者は0名であった。2日目より仮設住宅の一人暮らしの男性等に声かけを行ったが参加者はなかった。3日間連日参加された方は3名であった。民生委員の方によるシルバーリハビリ体操が行われ、支援者側も血圧測定等の健康観察を行いながら会話を傾聴した。毎日、お茶会の会話内容が変化し参加者の笑顔が多く見受けられ、参加者が帰る時には「元気になった」と言われていた。

2) 第3回地域のコミュニティの構築を考えるミーティング

参加者：地域の主な役割を持つ住民の方々、行政職

今回は、東日本大震災で被災した現地の保健師により、これまでの地域コミュニティの再構築

のあゆみや工夫した点等の紹介があった。住民からは、これからの参考にしたいとの感想があった。また、現在の困り事を記入している段階では在宅者より、気温が高くなり地域の中で異臭を感じるが多くなったとの意見があった。行政との情報交換なども行き、行政で対応できることはすみやかに実施していく等の返答があり、住民の行政への理解も示されていた。

【連携】

1) 珠洲市保健師と、お茶会の集会所がある仮設住宅の、健康上気になる住民の情報共有を行った。

お茶会に声かけを行う方等について確認しあい、今後も情報共有することなどを検討した。

2) 毎朝 8:30 からの保健師ミーティングに参加した。保健師チームは石川県チーム、福井県チーム、神奈川県チームが仮設住宅、避難所支援を行っていた。当日の訪問予定や新たな仮設住宅説明会の打ち合わせが行われていた。珠洲市保健師、社会福祉協議会のささえ愛センターや他支援団体が参加していた。活動報告ミーティングは、14:00 からの仮設住宅説明会がある時は 16:30~17:00、説明会が無い時は、15:30~16:00 に行われた。その日の活動内容を報告し要フォロー者の有無や生活状況などが共有された。日本災害看護学会もお茶会や避難所の巡回の報告等を行った。また、お茶会の時には、隙間時間のある支援者がこられ、血圧測定や健康観察の他、体操の安全面の配慮などの協力が得られた。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【避難所支援】

訪問した避難所は、人数が少なくなり固定化して、仕事や通院、地域の行事にも参加するなどの社会活動も営まれ、落ち着いているように感じた。しかし同時に、避難所の環境での課題が見えにくくなっていることも感じた。継続した巡回活動により、季節や生活の変化等による健康障害を見逃さないようにしていく必要があると考える。そして、避難所にも、週に 1 度でも訪問する団体がいることを理解してもらい、困った時には相談をしてもらえらる絆を繋げていきたいと考える。

【仮設住宅支援】

仮設住宅住民の気になる方に、お茶会の声かけを行ったが、声をかけた男性の参加者はなかった。男性も参加しやすくなる内容を考え、事前に周知することも今後検討する必要がある。また、お茶会の後でも気になる方の訪問は可能であり、午後に訪問して困り事等を、お話する機会を持つことも重要と考える。

【地域コミュニティ支援】

地域間の交流の場となるお茶会は、参加者の心と身体のリフレッシュとなっている。現在は、生活環境の変化の戸惑いや断水等の影響も続くことによる困り事の思いを受け皿となる支援や、血圧手帳の管理などの自主的な健康観察習慣が根付く支援が必要と考える。今後は、参加住民が講師となる場面では、生き生きとされていることより、住民同士が主体となる交流の場を目標にした支援を継続することが重要と考える。



美味しいα米の作り方講習



椅子や座位でもできる体操